豊田氏と野崎氏の

ちょっと行ってみいへんで

四国八十八箇所編

～第21番札所から23番札所まで～

いよいよ徳島県では終盤の札所へと向かいます。

第21番 太龍寺（たいりゅうじ）

本尊　虚空蔵菩薩

20番鶴林寺から太龍寺には南へ2キロほど下がり、麓の道を500メートルほど歩いて那賀川を渡り、鶴林寺よりも更にきつい山頂までの3キロの急な山道を登ります。3時間はたっぷりかかりますが、近年はロープウェイが開通し、標高602メートルの太龍寺山の頂上まで歩かずして行けるようになりました。自動車であればロープウェイ乗り場まで約11キロの道のりです。ロープウェイ料金は、大人往復2,400円です。全長2,775メートル、約10分で到着します。

樹齢数百年の老杉が林立する中に、仁王門、六角経蔵、護摩堂、本坊、楼門、中興堂、大師堂、多宝塔、弁天堂、本堂、鎮守堂、求聞持堂など、江戸時代に再建された諸堂が建ち並んでいます。諸堂を参拝後は大師が苦行された巌山にある舎心獄へも登りたかったのですが、当日は天候の急変による雪のため断念しました。

二十歳頃までの大師は四国の山地の大自然の中で修行を積み重ね、深い宗教的な体験を重ねられました。大師は百日間の修行で悟りが得られず、深い谷に臨んだこの巌上から身を投げて悟りを開こうとされたと言います。

ロープウェイは設置後21年経っていますが、ほとんどの人が利用しているようです。重なる遠くの山々や橘湾が見える景色は気持ちよく素晴らしいです。

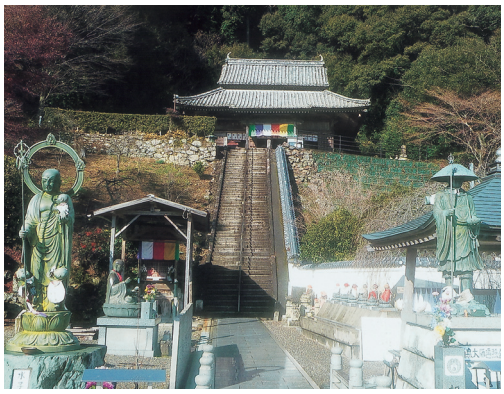
第22番

平等寺（びょうどうじ）

本尊　薬師如来

車では13.7キロの移動ですが、難所を打った後は苦行をしないで打てる札所になります。新野の町に入り桑野川を渡ると仁王門があります。人々を平等に救うために寺号は平等寺とされました。

錫杖で大地を掘ったら乳のような霊水が湧き出たので、白水山の山号をつけたと言われ、今でも白水の井戸からは日照りにも枯れることなく霊水が湧き出ており、万病に効くと言います。



第23番

薬王寺（やくおうじ）

本尊　厄除薬師如来

平等寺からは22.5キロ。三つの峠を越えます。最近、日和佐道が開通してからは非常に便利になりました。ここ薬王寺を打てば発心の道場といわれる阿波一国23カ所も打ち終え、一国めぐりなら結願になります。

仁王門を入ると33段の女厄坂。本堂までは42段の男厄坂となります。男女の厄年に当たり、その厄除けに登る段なのですが、厄年の人は草履に履き替えて一段あがるごとに硬貨を落としながら登り、厄除杵で抹香臼を年の数だけつき、随求堂で馨板（かね）を撞木で年の数だけたたいてから本堂へ向かいます。さらに本堂から61段の本卦還り（還暦）坂が高さ35メートルのゆぎ塔へと続いています。

本堂には二躰の薬師如来が安置されていますが、「後ろ向き薬師」と呼ばれる所以には興味を惹かれま

す。文治４年（1188年）の火災の時、本尊を出すことができないでいたら、本尊は光を放ちながら奥の院の玉厨子山へ飛び去りました。後に伽藍を再建し薬師如来に入仏供養をされると、先に玉厨子山に移られた本尊が戻って後ろ向きに本堂に入られたといいます。

１番霊山寺とともに初詣客が多く訪れているお寺の一つです。桜の咲く季節の風景は特におすすめです。

番外

鯖大師

札所ではありませんが、弘法大師ゆかりの寺として知られています。日和佐から高知への途中に八坂八浜があり、八坂山鯖大師本坊があります。

馬に塩鯖を満載した馬子が通りかかったとき、大師が塩鯖を一匹所望したところ、馬子はののしって立ち去りました。ところが、坂道にさしかかり馬が腹痛をおこし動けなくなりました。困惑した馬子は反省し引返してきたので、大師はあわれに思い加持水を馬子に与えました。この水を飲んだ馬はたちまち回復し、お礼に馬子は大師に鯖を一匹献じました。大師は、「塩鯖が欲しかったのではなく、大切なのは布施の心なのだ」と教え、塩鯖を海中へ放ち加持したところ、鯖は回生して泳ぎ去りました。この霊験を見た馬子は発心し、境内に草庵を結んで出家したと言います。

毎年多くの巡礼者が訪れてきます。

四国霊場八十八箇所のうち、阿波一国の23番までの札所めぐりができました。いよいよ次は高知の24番最御崎寺（ほつみさきじ）となります。

弘法大師・空海上人が弘仁６年（815年）に開創されたと伝えられている四国八十八箇所霊場は、平成26年（2014年）に開創1200年の記念の年を迎えます。霊場の各寺院は本尊ご開帳など、それぞれの記念事業を計画しています。ぜひ、八十八箇所をお参りし、最後は高野山へ行ってみたいものです。

（担当：豊田雅信・野﨑聖一）